

平成25年度 病害虫発生予察情報

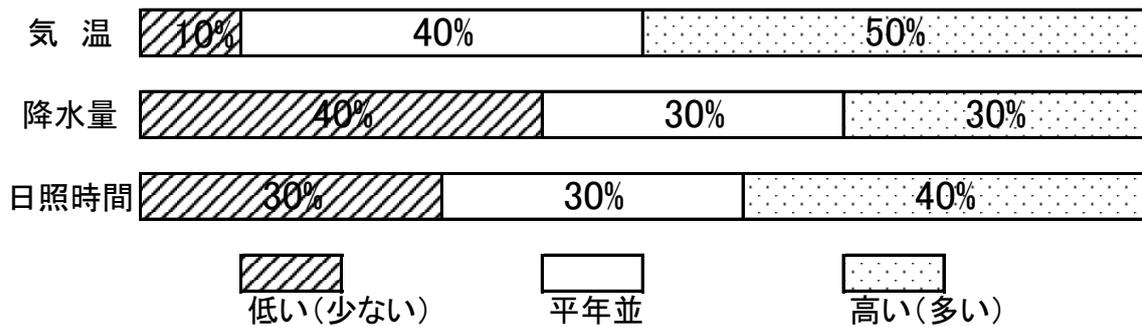
発生予報第5号（7月中旬～8月上旬）

平成25年7月16日
島 根 県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量		
普通作物	イネ	葉いもち	少ない		
		穂いもち	少ない		
		紋枯病	やや少ない		
		白葉枯病	やや少ない～平年並		
		縞葉枯病	平年並		
		ヒメトビウンカ	やや多い		
		ニカメイチュウ	平年並		
		ツマグロヨコバイ	平年並		
		セジロウンカ	平年並		
		トビイロウンカ	平年並		
		コブノメイガ	平年並		
		斑点米カメムシ類	平年並		
		果樹	ナシ	黒斑病	多い
				黒星病	やや少ない～平年並
シンクイムシ類	平年並				
ハダニ類	平年並				
アブラムシ類	やや少ない				
カキ	うどんこ病		やや少ない		
	チャノキアザミウマ		やや少ない		
果樹全般	カメムシ類		やや少ない		

中国地方1か月予報(7月13日～8月12日・広島地方气象台7月12日発表)
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



A. 普通作物

1) イネ

(1) 葉いもち

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

少ない

予報の根拠

- ① 7月8日現在、巡回調査地点における発生圃場率は0%（平年11.7%、前年5.7%）と少ない。
- ② 感染好適日は、県内一部地域で6月第6半旬～7月第3半旬に出現している。
- ③ 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

- (2) 穂いもち
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 少ない
 予報の根拠
 ①伝染源となる葉いもちの発生量は少ないと予想される。
 ②向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。
- (3) 紋枯病
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 やや少ない
 予報の根拠
 ①7月8日現在、巡回調査地点における発病株率は0.3%（平年3.1%、前年0.4%）と少ない。
 ②向こう1か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。
- (4) 白葉枯病
 予報内容
 発生地方 県内常習発生地帯
 発生量 やや少ない～平年並
 予報の根拠
 ①7月8日現在、発生は確認されていない。
 ②向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。
- (5) 縞葉枯病
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ①県内の一部で発生が認められる。
 ②媒介虫であるヒメトビウンカの発生量はやや多いと予想される。
- (6) ヒメトビウンカ
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 やや多い
 予報の根拠
 ①7月中旬の巡回調査では、捕獲数は2.8頭（平年1.0頭/50株）、発生圃場率は37.5%（平年19.3%）で発生量は平年に比べてやや多い。
 ②7月12日までにネットトラップ（出雲市）では捕獲されていない。
 ③向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。
- (7) ニカメイチュウ（第1世代）
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ①予察灯、フェロモントラップにおける誘殺数はほぼ平年並みである。
 ②7月中旬の巡回調査では、発生圃場率は7.5%（平年11.3%）、被害株率は0.3%（平年0.5%）で発生量は平年並みである。
 ③向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。
- (8) ツマグロヨコバイ
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ①7月中旬の巡回調査では、捕獲数は15.4頭（平年19.4頭/50株）、発生圃場率は42.5%（平年74.3%）で発生量は平年並みである。
 ②予察灯での誘殺数は平年並みである。
 ③向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。
- (9) セジロウンカ
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ①予察灯への初飛来は、出雲市で5月29日に観察された。誘殺数は平年に比べてやや少ない。
 ②7月中旬の巡回調査では、捕獲数は92.2頭（平年70.7頭/50株）、発生圃場率

は11.9%（平成45.0%）で発生量は平成並みである。

③向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(10) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平成並

予報の根拠

①予察灯（益田市）への飛来は6月19日に認められた。

②7月中旬の巡回調査では圃場での発生は認められない。

③向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(11) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平成並

予報の根拠

①予察灯（出雲市）での誘殺数はほぼ平成並みである。

②7月中旬の巡回調査では、発生圃場率は17.5%（平成23.2%）、被害株率は3.9%（平成3.6%）で発生量はほぼ平成並みである。

③向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(12) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平成並

予報の根拠

①6月下旬の圃場周辺雑草地のすくい取り調査では、カメムシ類合計で1.5頭/10回振り（平成2.1頭）で発生量は平成並みである。主要種はアカスジカスミカメ、次いでホソハリカメムシが多い。

②7月12日に出穂している極早生品種のすくい取り調査では、カメムシ類合計で2.2頭/10回振り（平成3.4頭）で発生量は平成並みである。

③向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 ナシ（二十世紀）栽培地帯

発生量 多い

予報の根拠

①6月21日の巡回調査では、発病葉率13.2%（平成5.8%）であり、発生量は平成に比べて多い。

②向こう一か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

注）注意報第2号 参照

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや少ない～平成並

予報の根拠

①6月21日の巡回調査では、発病葉率0.4%（平成1.1%）であり、発生量は平成並みである。

②向こう一か月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生時期 平成並

発生量 平成並

予報の根拠

①フェロモントラップ（安来市、出雲市）でのナシヒメシンクイ第1世代の雄成虫の誘殺盛期、誘殺数はともに平成並みである。

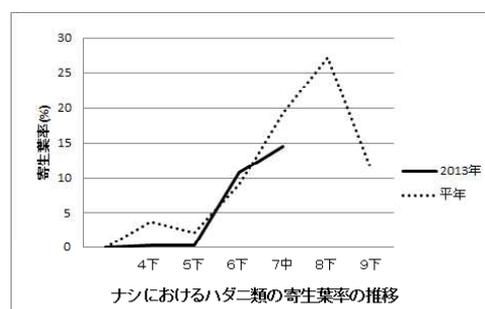
②向こう一か月の気象は本種の発生を抑制する要因とはならない。

(4) ハダニ類

予報内容
発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月中旬の巡回調査では寄生葉率14.6% (平年7月下旬: 19.2%) で平年並み。
- ② 向こう一か月の気象は本虫の発生を抑制する要因とはならない。
- ③ クワオオハダニが見られる圃場も散見される。クワオオハダニに効果の低い薬剤があるため薬剤の種類には注意が必要である。

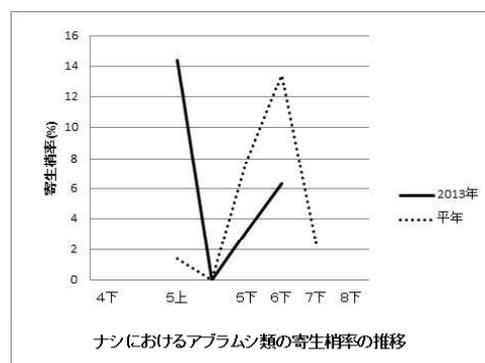


(5) アブラムシ類

予報内容
発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では寄生新梢率6.3% (平年13.4%) で平年並みである。
- ② 向こう一か月の気象は本虫の発生を特に抑制する要因とはならない。



2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容
発生地方 県内カキ栽培地帯
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 6月28日の巡回調査では、発生量は平年並みである。
- ② 向こう一か月の気象は本病の発生に抑制的である。

(2) チャノキイロアザミウマ

予報内容
発生地方 県内カキ栽培地帯
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 露地圃場に設置した粘着トラップでの誘殺数は平年に比べてやや少ない。
- ② 向こう一か月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。

3) 果樹全般 (カキ、ブドウ、ナシ等)

(1) カメムシ類

予報内容
発生地方 県内果樹栽培地帯
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 予察灯 (出雲市) での7月1半旬までの誘殺数は120頭 (平年366.9頭) で平年よりやや少ない。
- ② 向こう一か月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。
- ③ ヒノキ花粉飛散量は平年に比べ多く毬果も多いと予想され、圃場への飛来は遅くなると予想される。

島根県病害虫防除所

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>